

Photoshop® Quick Master

ver1

2026 補足版

バージョン 27.2 (2025 年 12 月リリース)

- ・ 当補足版は、Adobe® Photoshop® 2026 (バージョン 27.2) ユーザーがテキスト「Photoshop® クイックマスター (2025 対応)」を使用した場合の操作内容及び操作説明を補足するものです。
- ・ テキスト「Photoshop® クイックマスター (2025 対応)」は、Adobe® Photoshop® 2025 (バージョン 26.2) に対応しています。

	バージョン	リリース		対応テキスト
Photoshop 2025	26.3	2025年1月	Photoshop クイックマスター (2025対応)	
	26.4	2025年2月		
	26.5	2025年3月		+ 2026 補足版 (P4)
	26.6	2025年4月		+ 2026 補足版 (P4,P5)
	26.7	2025年5月		
	26.8	2025年6月		+ 2026 補足版 (P4,P5,P9)
	26.10	2025年8月		
	26.11	2025年9月		+ 2026 補足版 (P2,P4,P5,P9)
Photoshop 2026	27.0	2025年10月		+ 2026 補足版
	27.1	2025年11月		
	27.2	2025年12月		

※当補足版は、Adobe® Photoshop® 2026 (バージョン 27.2)、Windows 11、mac OS ver14.6 の環境で制作しています。

■ P.10 (1 Photoshopの起動 (Windows))

手順
番号

(2025)

(2026)

1

[スタート] メニューから [すべて] — [Adobe Photoshop 2025] を選択し、Photoshop を起動します。



[スタート] メニューから [すべて] — [Adobe Photoshop 2026] を選択し、Photoshop を起動します。

■ P.10 (1 Photoshopの起動 (Mac))

手順
番号

(2025)

(2026)

2

《Adobe Photoshop 2025》フォルダー内の [Adobe Photoshop 2025] をダブルクリックし、Photoshop を起動します。



《Adobe Photoshop 2026》フォルダー内の [Adobe Photoshop 2026] をダブルクリックし、Photoshop を起動します。

■ P.53 ～ 54 (6 選択とマスクワークスペース)

[被写体を選択] の精度が向上し、手順 2 までの操作でほぼ正確に猫の選択範囲が作成され、選択範囲を調整する必要がなくなりました。[被写体を選択] コマンドで正確な選択範囲を作成できなかった場合は、手順 3 以降を参考にしてください。



[被写体を選択] 適用後

■ P.55 (Chapter2 演習問題)

[被写体を選択] の精度が向上し、手順 1 で [被写体を選択] を適用するだけで、ほぼ正確な選択範囲を作成することができます。



[被写体を選択] 適用後

■ P.77 (4 カラーバランス)

Photoshop 2025 (26.11) ~

[カラーバランス] ダイアログのユーザーインターフェイスが刷新されました。

手順
番号

(2025)

(2026)

2

ファイル《1C408.psd》は、全体的に黄味がかっているので、青を強調した画像に補正します。【階調のバランス】の【中間調】を選択し、【カラーレベル】を左からそれぞれ「-10」、「0」、「+ 30」に設定します。
全体的に青が強くなりました。



ファイル《1C408.psd》は、全体的に黄味がかっているので、青を強調した画像に補正します。【階調】の【中間調】を選択し、【シアンからレッド】を「-10」、【マゼンタからグリーン】を「0」、【イエローからブルー】を「+ 30」に設定します。
全体的に青が強くなりました。



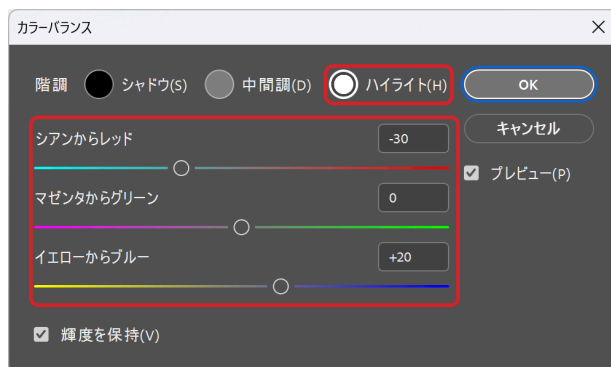
[カラーバランス] ダイアログ

3

続いて、明るい部分だけを補正します。【階調のバランス】の【ハイライト】を選択し、【カラーレベル】を左からそれぞれ「-30」、「0」、「+ 20」に設定して、[OK] ボタンをクリックします。
明るい部分の青がさらに強くなりました。



続いて、明るい部分だけを補正します。【階調】の【ハイライト】を選択し、【シアンからレッド】を「-30」、【マゼンタからグリーン】を「0」、【イエローからブルー】を「+ 20」に設定して、[OK] ボタンをクリックします。
明るい部分の青がさらに強くなりました。



[カラーバランス] ダイアログ

■ P.112 (4 [生成塗りつぶし] コマンド)

[生成塗りつぶし] を実行する際に、複数の生成 AI モデルから適切な AI モデルを選択できるようになりました。

手順
番号

(2025)

(2026)

3

[生成塗りつぶし] ダイアログの [生成] ボタンをクリックします。



[生成塗りつぶし] ダイアログの左下の [モデルを選択します。] をクリックし、使用したいモデルを選択して [生成] ボタンをクリックします。

Point | 生成 AI モデルの使い分け

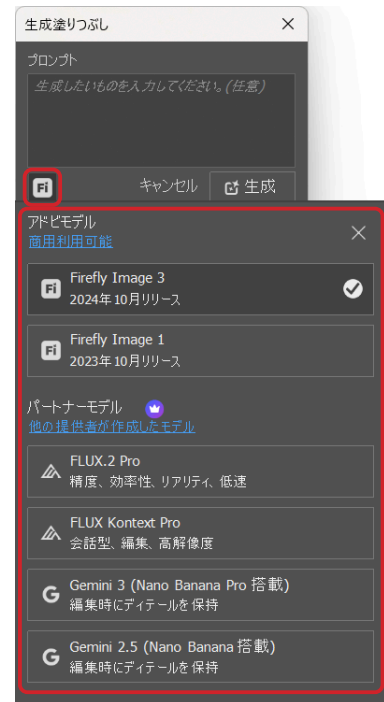
[生成塗りつぶし] で利用できる生成 AI モデルの特徴は以下の通りです。目的に合わせて適切な生成 AI モデルを選択してください。

Firefly Image : Adobe の生成 AI です。商用利用の安全性と高画質を重視する場合に適しています。Firefly Image1 よりも Firefly Image3 の方が新しく、優れた結果が期待できます。

FLUX.2 Pro : Photoshop 2026 (27.2) 以降で利用できます。写実性やディテールの再現性に優れた高品質モデルです。質感・光の表現・細部の描写を重視したい場合や、写真に自然になじむ高精細な合成・生成を行いたい場合に適しています。

FLUX Kontext Pro : 画像全体の文脈や遠近感、雰囲気を崩さずに編集したい場合に適しています。看板やポスターの文字差し替えなど、元画像のスタイルを維持した編集に向いています。

Gemini (Nano Banana) : 人物の顔の向きや表情を変えるなど、テキストプロンプトを入力して、画像の特徴を維持したまま新しい画像を生成したい場合に適しています。Gemini 3 の方が優れた結果が期待できます。



AI モデルを選択

■ P.115 (6 画像を生成)

手順
番号

(2025)

(2026)

2

ツールバーの [画像を生成] をクリックします。



ツールバーの [画像を追加または生成] をクリックし、[画像を生成] を選択します。



[画像を追加または生成] から [画像を生成] を選択

■ P.128 (3 プリセット)

Photoshop 2025 (26.5) ~

手順
番号

(2025)

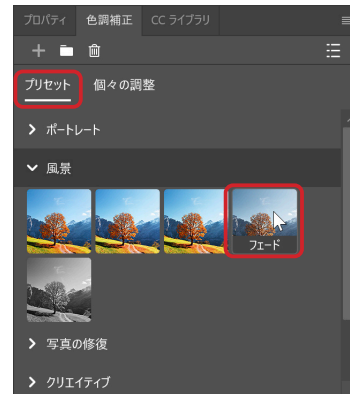
(2026)

1

[色調補正] パネルの **【プリセット】** をクリックして展開し、サムネールにポインターを合わせると、プリセットを適用した結果をプレビューすることができます。



[色調補正] パネルの **【プリセット】** を選択します。**【風景】** をクリックして展開し、サムネールにポインターを合わせると、プリセットを適用した結果をプレビューすることができます。



サムネールをポイント



元の画像



プリセット適用後のプレビュー

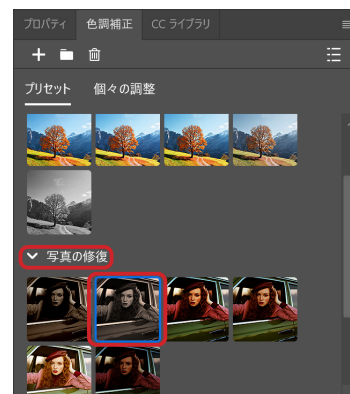
2

【プリセット】の【その他】 をクリックし、**その他のプリセット**を表示します。

[写真の修復] をクリックして展開し、[コントラスト (暖色系)] をクリックします。



[写真の修復] をクリックして展開し、[コントラスト (暖色系)] をクリックします。



[コントラスト (暖色系)] をクリック

■ P.201 (Step4 特定の色ごとに彩度を上げる)

Photoshop 2025 (26.6) ~

手順
番号

(2025)

(2026)

2

[プロパティ] パネルで、**【マスター】**と表示されているプルダウンメニューから**【レッド系】**を選択します。

[彩度] のスライダーを少しずつ右に動かすと、赤のカラー要素を持つ部分の彩度が高くなり、鮮やかさが増します。

「+ 12」になるように設定します。



[プロパティ] パネルで、**カラー調整ピンホイールのレッド**を選択します。

[彩度] のスライダーを少しずつ右に動かすと、赤のカラー要素を持つ部分の彩度が高くなり、鮮やかさが増します。

「+ 12」になるように設定します。



レッドの調整

3

【レッド系】と表示されているプルダウンメニューから**【イエロー系】**を選択し、[彩度]を「+ 10」に設定します。

続いて、**【グリーン系】**の[彩度]も「+ 10」に設定します。



カラー調整ピンホイールの**イエロー**を選択し、[彩度]を「+ 10」に設定します。

続いて、カラー調整ピンホイールの**グリーン**を選択し、[彩度]を「+ 10」に設定します。



イエローの調整



グリーンの調整

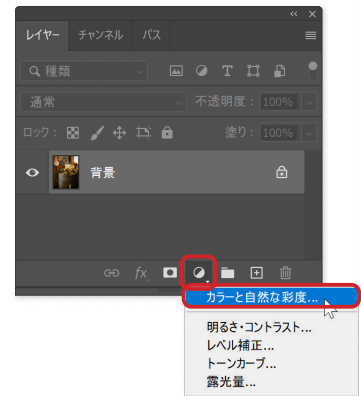
【新機能 1】調整レイヤー [カラーと自然な彩度]

調整レイヤーに「カラーと自然な彩度」が追加され、[プロパティ] パネルで色温度、色かぶり、自然な彩度、彩度を調整することができるようになりました。

 Photoshop 2026 hosoku ▶ psShinkinou1.psd

1 ファイル《psShinkinou1.psd》は、色温度が低い白熱灯の下で撮影したため、全体に赤味がかかっています。調整レイヤー [カラーと自然な彩度] で調整してみましょう。

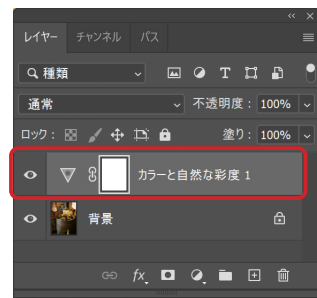
[レイヤー] パネルの [塗りつぶしまたは調整レイヤーを新規作成] ボタンをクリックして、[カラーと自然な彩度] を選択します。



ファイル《psShinkinou1.psd》

[カラーと自然な彩度] を選択

調整レイヤー [カラーと自然な彩度 1] が作成されます。



調整レイヤー [カラーと自然な彩度 1]

2 [プロパティ] パネルで、[色温度] を「-30」、[彩度] を「+ 50」に設定します。画像全体の赤味が抑えられ、鮮やかな色合いに調整されました。

[カラーと自然な彩度] では、以下の調整をすることができます。

色温度：カラーの暖かみまたは冷たさを調整します。数値を大きくするとカラーの暖かみが増し、数値を小さくするほど冷たい印象になります。

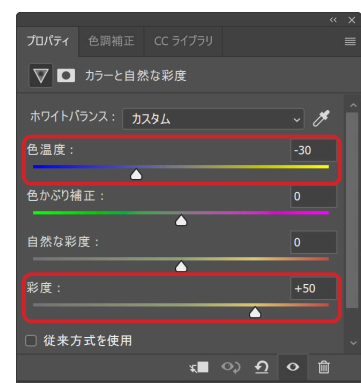
色かぶり補正：カラーをグリーンまたはマゼンタ方向にシフトします。数値を大きくするとマゼンタが強くなり、数値を小さくするほどグリーンが強くなります。

自然な彩度：彩度が低い色を中心に彩度の適用量を調整します。

彩度：画像全体の彩度を均等に調整します。



[カラーと自然な彩度] 適用後



[プロパティ] パネル

【新機能 2】 調和

異なる画像を合成する際に、生成 AI によってカラーやトーン、影などを自動で調整し、違和感の無い合成ができるようになりました。

Photoshop 2026 hosoku ▶ psShinkinou2A.psd

- 1 メニューバーの [ファイル] — [埋め込みを配置] を選択します。
[埋め込みを配置] ダイアログで、ファイル《psShinkinou2B.psd》を選択して、[配置] ボタンをクリックします。
右図を参考に、キツネの画像を配置します。



ファイル《psShinkinou2B.psd》を配置

- 2 キツネの画像の明るさや色合いが背景になじまず、違和感があります。[調和] を使用して補正してみましょう。
コンテキストタスクバーの [調和] ボタンをクリックします。（コンテキストタスクバーが表示されていない場合は、メニューバーから [ウィンドウ] — [コンテキストタスクバー] を選択します）

キツネの画像が調整され、違和感が無くなりました。



コンテキストタスクバーの [調和] をクリック



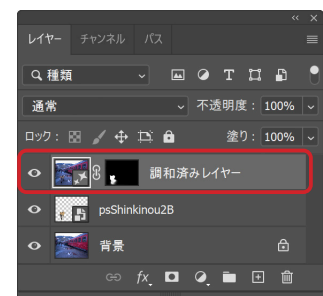
【調和】適用後

[プロパティ] パネルの [バリエーション] に表示されているサムネールをクリックして、最適な結果を選択します。

【調和】の結果は、レイヤー [調和済みレイヤー] に作成されます。



【プロパティ】パネルの [バリエーション]



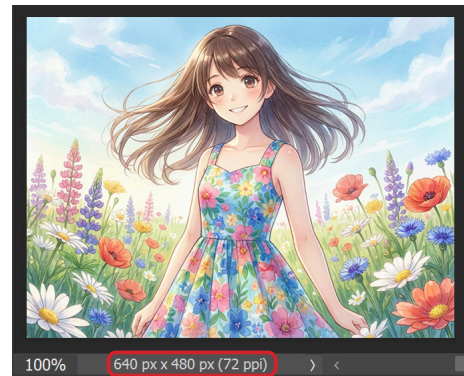
【調和済みレイヤー】

【新機能 3】 生成アップスケール

低解像度の画像を、生成 AI によって pixel を補完・生成し、画質を維持したまま高解像度に変換できるようになりました。

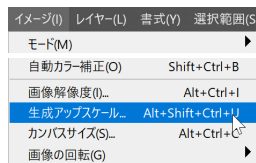
Photoshop 2026 hosoku ▶ psShinkinou3.psd

- 1 ファイル《psShinkinou3.psd》を開いてステータスバーを確認すると、幅：640px、高さ：480px であることがわかります。
この画像をアップスケールしてみましょう。



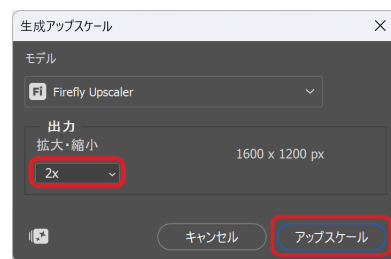
ファイル《psShinkinou3.psd》の画像サイズを確認

- 2 メニューバーの [イメージ] - [生成アップスケール] を選択します。



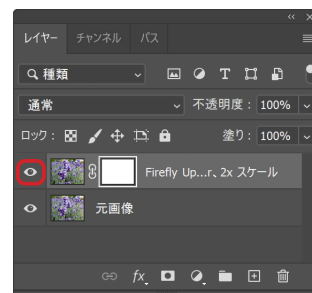
[生成アップスケール] ダイアログの [拡大・縮小] で [2x] を選択し、[アップスケール] ボタンをクリックします。

《psShinkinou3 Firefly Upscaler 2x スケール.psd》という名前の新規ドキュメント上にアップスケールされた画像が生成されました。



【生成アップスケール】ダイアログ

- 3 《psShinkinou3 Firefly Upscaler 2x スケール.psd》の [レイヤー] パネルには、通常拡大しただけのレイヤー [元画像] と、生成 AI が生成したレイヤーの 2 つが作成されています。
AI が生成したレイヤーの [レイヤーの表示 / 非表示] アイコンをクリックして違いを比較してください。



【レイヤーの表示 / 非表示】アイコン

元画像は画像がぼやけていますが、生成 AI がアップスケールした画像は細部まで鮮明に描画されています。



アップスケールした画像



元画像（通常拡大した画像）

【新機能 4】ダイナミックテキスト

Photoshop 2025 (26.8) ~

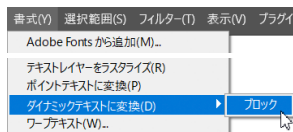
テキストエリアのサイズに応じて、改行やフォントサイズを自動調整して整列することができるようになりました。

1 メニューバーから [ファイル] - [新規] を選択し、[印刷] - [A4] のプリセットを選択して、[作成] ボタンをクリックします。

2 ツールバーから [横書き文字ツール] を選択します。
オプションバーのフォントファミリーを [小塚ゴシック Pro]、フォントスタイルを [B]、テキストのカラーを「R:0 G:0 B:0」(ブラック) に設定します。
キャンバス上をドラッグして、テキストエリアを作成し、以下の文字列を入力します。

クイック (改行) マスター (改行)
Adobe Photoshop 2026

3 テキストエリアの外をクリックしてテキストの選択を解除します。
メニューバーから [書式] - [ダイナミックテキストに変換] - [ブロック] を選択します。



※ Photoshop 2025 (26.8) ~ Photoshop 2026 (27.1) では、テキストの選択を解除する必要はありません。メニューバーから [書式] - [ダイナミックテキストに変換] を選択します。

ダイナミックテキストに変換され、テキストエリアのサイズに合わせて文字が自動調整されます。

4 テキストをクリックしてテキストエリアを表示し、ハンドルをドラッグして、右図のような縦横比にしてみましょう。
テキストエリアに合わせて文字サイズと改行位置が自動調整されました。

再度、テキストエリアのハンドルをドラッグして、右図のような縦横比にしてみましょう。



テキストエリアに文字を入力

クイック
マスター
Adobe Photoshop 2026

テキストの選択を解除

クイック
マスター

Adobe Photoshop 2026

ダイナミックテキストに変換後



ハンドルをドラッグしてテキストエリアを變形



ハンドルをドラッグしてテキストエリアを變形

【新機能 5】 AI ノイズ除去

生成 AI によって、暗い場所で撮影された画像に発生するノイズを除去できるようになりました。

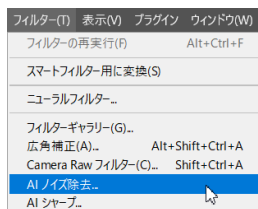


Photoshop 2026 hosoku ▶ psShinkinou5.psd

1

ファイル《psShinkinou5.psd》は、撮影時に光量不足であったため、ノイズが発生しています。AI ノイズ除去でノイズを取り除いてみましょう。

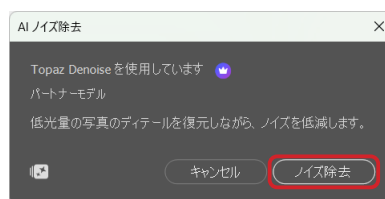
メニューバーから[フィルター]—[AI ノイズ除去]を選択します。



ファイル《psShinkinou5.psd》

([パートナーモデルの使用を開始] というアラートが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします)

[AI ノイズ除去] ダイアログの [ノイズ除去] ボタンをクリックします。



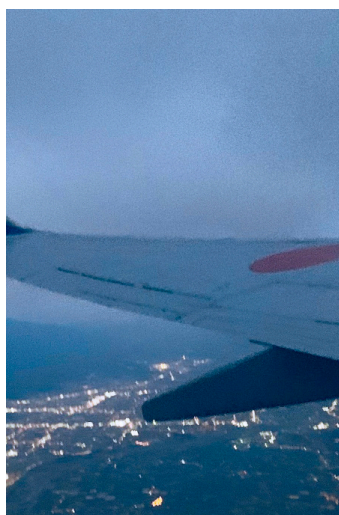
[AI ノイズ除去] ダイアログ

2

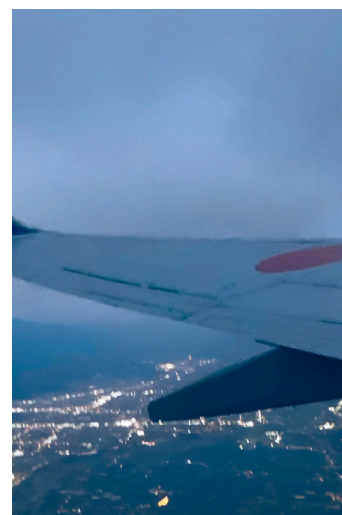
画像の品質を維持したままノイズが除去されました。

[生成塗りつぶし] や [生成拡張] など生成した結果は新しいレイヤー上に生成されますが、[AI ノイズ除去] は選択したレイヤー上の画像が編集されます。

[AI ノイズ除去] を適用する前の画像と比較する場合は [取り消す] のショートカットキー「Ctrl (command)」+ 「Z」キーと、[やり直し] のショートカットキー「Shift (⇧)」+ 「Ctrl (command)」+ 「Z」キーを交互に押します。



元画像



[AI ノイズ除去] 適用後

【新機能 6】 AI シャープ

生成 AI によって、撮影時のブレやピンボケを軽減しながら、画像をシャープに復元できるようになりました。

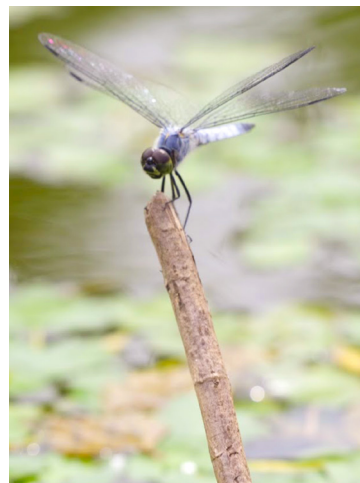
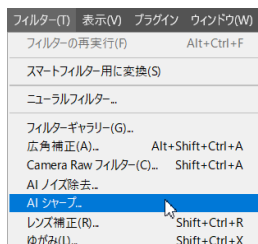


Photoshop 2026 hosoku ▶ psShinkinou6.psd

1

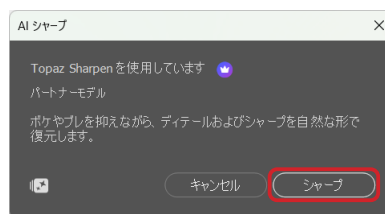
ファイル《psShinkinou6.psd》は、撮影時のピントが甘く、ブレもあるため、全体的に不鮮明です。AI シャープで補正してみましょう。

メニューバーから [フィルター] — [AI シャープ] を選択します。



ファイル《psShinkinou6.psd》

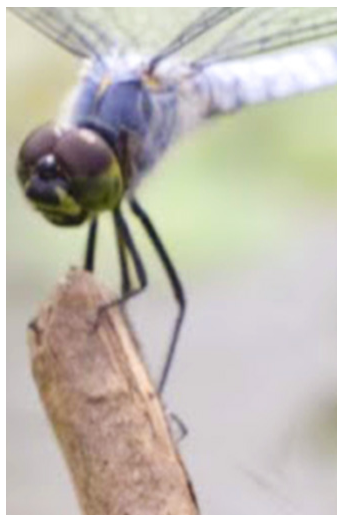
[AI シャープ] ダイアログの [シャープ] ボタンをクリックします。



[AI シャープ] ダイアログ

2

ブレやピンボケが軽減され、画像がシャープになりました。
[AI シャープ] を適用する前の画像と比較してみましょう。



元画像



[AI シャープ] 適用後